

十勝管内の農機具メーカーが全道的に高い評価を受けている。10月にフクザワ・オーダー農機（芽室町）が道の北海道新技術・新商品開発賞「ものづくり部門開発奨励賞」を、キュウホー（足寄町）が発明協会の北海道地方発明表彰「道発明協会長賞」を受賞した。地元メーカーが十勝の営農を支えている。

◆作業機側から停止

新型機種にも対応 フクザワ

ナガイモ関連の農機具製造を主軸とするフクザワ・オーダー農機が開発したのは、新型トラクター向けの緊急停止装置。

ハーベスター上の作業者とトラクターの運転者は離れているため、緊急停止や走行速度など作業者の意思が伝えられない。作業者は無理なペースで作業を強いられ、動いている機械から降りて、速度の低下などを伝えようとして事故につながるケースがあった。開発した機械は、作業機上からも緊急停止できるよう開発された。

十勝でも普及しているヤンマー社「YTシリーズ」が対象。同様の安全装置は同社で以前から製造していたが、トラクター内部の装置が高度化したため、通信方法を対応させた。

とかち財団の協力を得て昨年秋ごろまでに開発。管内などで19台導入されている。福澤剛志社長は「作業機側で停止操作ができ、安全性が向上する。来年以降も導入が進みそう」と話している。



フクザワ・オーダー農機が開発した緊急停止装置

◆特別な加工不要

葉をかき分け キュウホー

農機具開発・製造販売のキュウホーが開発したのはトラクター用葉分け機「豆シャトル」。トラクターに設置し、防除作業の際に作物を踏まないよう、葉をかき分ける。作物を踏むとつぶれて歩留まりが悪くなるため、これまでは自作で同様の器具を作っていた人もいた。

7～8年前から販売し、多い時は1年で約100台は出た人気商品。管内の他、北見、上川、空知地方の農家にも愛用されている。

トラクターに特別な加工を施す必要がなく、手軽に設置できる。電動ホイストを用いて葉分け部分を上げ下げでき、回転時も手間がかからない。

永井博道社長は「台数も出ており、使っている人の評判も上々」と話している。



キュウホーのトラクター用葉分け機「豆シャトル」

十勝農協連（山本勝博会長）は年明け1月から、営農関連情報をまとめたサイト「十勝地域組合員総合支援システム（TAF）」の全サービスの本格運用を開始する。組合員個々のほ場図を示すマッピング機能を新たに搭載、農場の生産履歴や組合員勘定など幅広い情報を、いつでも閲覧することができる。農協連では「地図情報も含めた総合的なシステムは道内でも珍しい」としている。

TAFは、これまで独立していた組合員勘定明細などの「個別農場情報」と「農産物生産履歴システム」「酪農畜産物生産履歴」、気象情報といったサービスを一元化した。徐々に新機能を付加しており、「マッピングシステム」と「施肥設計」でサービスがそろうことになった。来年1月以降、JA単位で順次利用できるようになる。

マッピング機能は、地図上で分筆・合筆をして農場のほ場図を作成することができる。栽培する作物や収量、病害虫発生状況などをデータ入力すれば、営農計画の参考になる。